

実習名：生命機能実習Ⅲ（感染と生体防御）

月日	曜日	時限	授業タイトル	講義担当者		授業終了後に説明できる事項	事前学習
				氏名	所属		
7.2	火	IV・V・VI	DNAブロットング法-1	鈴木 登 清水 潤 高井 憲治 中田 なぎさ 村山 正承	免疫学・ 病害動物学 " " " "	1) 核酸、タンパク質の特異的な分子種の検出法としてのブロットング法を理解する。 2) DNA、タンパク質の電気泳動法、特にアガロース電気泳動法を理解する。	アップロードされた実習書を 通読しておくこと。
7.3	水	IV・V・VI	抗原特異的な抗体産生誘導とその評価-1	"	"	1) マウスへの抗原投与をモデルとして（抗原：ヒツジ赤血球 (SRBC)）抗原特異的な抗体産生誘導について理解する。 2) 赤血球凝集反応について理解する。3) 補体の働きについて理解する。	"
7.4	木	IV・V・VI	寄生虫とその検査法1 (ELISA)	"	"	1) ELISAの原理を理解する。（固相化抗原、検出抗体、ブロッキング、ペルオキシダーゼ発色系） 2) 抗体価の陰性レベルと陽性レベルの判定を行う。 3) 寄生虫症患者血清中の寄生虫抗原に対する抗体の検出について理解する。	"
7.9	火	IV・V・VI	DNAブロットング法-2 (ハイブリダイゼーション)	"	"	1) ブロットング法の種類と原理を理解する。（Southern blotting, Northern blotting, Western blotting, メンブレン、毛細管現象、ハイブリダイゼーション） 2) 本法の、臨床診断への応用をはじめ、極めて広い応用範囲を理解する。	"
7.10	水	IV・V・VI	抗原特異的な抗体産生誘導とその評価-2 (採血と血清分離)	"	"	1) マウスへの抗原投与をモデルとして（抗原：ヒツジ赤血球 (SRBC)）抗原特異的な抗体産生誘導について理解する。 2) 赤血球凝集反応について理解する。 3) 動物検体の採血法	"
7.11	木	IV・V・VI	ダニ・アレルギー	"	"	1) アレルギーに関わるダニについて理解する。 2) 代表的なダニの形態、及びダニの媒介する疾患（感染症）について理解する。	"
7.16	火	IV・V・VI	抗原特異的な抗体産生誘導とその評価-3 (凝集反応・溶血反応)	"	"	1) マウスへの抗原投与をモデルとして（抗原：ヒツジ赤血球 (SRBC)）抗原特異的な抗体産生誘導について理解する。 2) 赤血球凝集反応について理解する。 3) 補体の働きについて理解する。	"
7.17	水	IV・V・VI	フローサイトメトリーによるリンパ球抗原の分析	"	"	1) フローサイトメトリーの原理を理解する。 2) フローサイトメトリーを使ったリンパ球の解析について理解する。 3) フローサイトメトリーの臨床応用について理解する。	"
7.18	木	IV・V・VI	生体防御機構の異常-RAPAテスト-	"	"	1) リウマトイド因子は何に対する自己抗体か？ 2) リウマトイド因子が陽性となる疾患と臨床的意義？ 3) リウマトイド因子を検出する方法にはどんなものがあるか？	"
7.23	火	IV・V・VI	寄生虫とその検査法2 (蠕虫類)	"	"	1) 寄生虫のうち多細胞生物である蠕虫類（線虫・吸虫・条虫）に起因する疾患についてそれらの概略を理解する。 2) 蠕虫類の寄生部位が説明できる。 3) 蠕虫症の診断に糞便や喀痰の虫卵検査が有効な場合、虫卵による寄生虫の鑑別ができる。	"

実習名：生命機能実習Ⅲ（感染と生体防御）

月日	曜日	時限	授業タイトル	講義担当者		授業終了後に説明できる事項	事前学習
				氏名	所属		
7.24	水	Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	リンパ球分離	鈴木 登 清水 潤 高井 憲治 中田 なぎさ 村山 正承	免疫学・ 病害動物学 " " " "	1) リンパ球、あるいはリンパ球サブセットの分離、同定の方法には何があるか。 2) Ficol1を使ったリンパ球分離の遠心後の状態について。 3) 細胞数の数え方について。	アップロードされた実習書を 通読しておくこと。
7.25	木	Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	寄生虫とその検査法3 (原虫類)	"	"	1) 寄生虫のうち単細胞生物である原虫類に起因する疾患についてそれらの概略を理解する。 2) 原虫類の寄生部位が説明できる。 3) 原虫症の診断で虫体を直接検査できる場合について説明し、原虫の鑑別ができる。	"
9.9 ※	月	Ⅲ	オリエンテーション (場所：301教室)	竹村 弘	微生物学		
9.10	火	Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	(微生物学) 1. 細菌学的検査 2. 分子生物学的検査の 2つをローテーション で行う。	竹村 弘 三好 洋 浅井 大輔	微生物学 " "	細菌学的検査 1. 細菌学的検査の過程を説明できる。 2. 抗酸菌の検査について説明できる。 3. 薬剤感受性検査について説明できる。  分子生物学的検査 1. 検体からHBVゲノムの分離・精製手法を説明できる。 2. HBV遺伝子の適切な増幅手法を説明できる。	事前配布した実習書を 熟読すること。
9.11	水	Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	"	"	"	"	"
9.12	木	Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	"	"	"	"	"
9.17	火	Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	"	"	"	"	"
9.18	水	Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	"	"	"	"	"
9.19	木	Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	"	"	"	"	"
11.11 ※	"	Ⅳ・Ⅴ	実習総括 (場所：301教室および SGL3-2～3-7)	"	"		

※ 9月 9日(月) Ⅲ限 微生物学 実習オリエンテーション(場所：301教室)を行います。必ず出席のこと。

※ 11月 1日(金) Ⅳ限、Ⅴ限 実習総括(場所：301教室およびSGL3-2～3-7)を行います。必ず出席のこと。